

Primate Report, 14: 180.

- 10) Matsuzawa, T.(1986): Pattern construction by a chimpanzee. 11th Congress of the International primatological Society. Primate Report, 14: 225-226.
- 11) Matsuzawa, T.(1986): Spontaneous pattern construction in a chimpanzee. The symposium "Understanding chimpanzees" in Chicago Academy of Science.

社会研究部門

川村俊蔵・鈴木 晃・森 梅代¹⁾

研究概要

- 1) インドネシア・シボラ島における各種霊長類の社会・行動学的研究のまとめ

川村俊蔵

スマトラ島南のシボラ島に生息する *Macaca pagensis*, *Presbytis potenziani* 他2種の観察を1985年に行い、特に行動型からの系統的関係について資料を集め、本年はその考察とまとめを行った。

- 2) スマトラにおけるブタオザルの社会学的研究

川村俊蔵・大井 徹

従来、世界的に研究の遅れているブタオザルの長期的社会学的研究をスマトラにおいて続行した。

- 3) 木曽研究林におけるニホンザルの群れの社会学的研究

川村俊蔵

ニホンザルに関しては、木曽研究林において、社会学的研究を続行した。

- 4) オランウータンの社会学的研究

鈴木 晃

1983年から行っているインドネシア・東カリマンタン・クタイ保護区において、オランウータンの社会構造に関する現地調査を1986年8月～10月に行った(海外学術調査 隊長田川日出夫・鹿児島大)。

- 5) クタイ保護区における各種霊長類の社会・生態学的研究

鈴木 晃

1983年の大山火事後、森林は二次林化による回復過程が進行中であるが、ここでの霊長類9種の群れの分布・構成を現地調査した。特にテナガザルの群れ構成と行動域の研究を中心に行った。

- 6) 志賀高原横湯川流域のニホンザルの社会学的資料の蓄積

鈴木 晃

上信越ニホンザル研究林及び横湯川流域に生息するニホンザル各群の社会学的資料の蓄積を行った。

- 7) ニホンザルの社会的発達に関する研究

森 梅代

幸島群を中心にメスの育児行動、離乳期前後の母子の相互交渉の変化、および社会関係の変化などを継続的に調査している。特に餌条件の比較的きびしい離乳期に赤ん坊はどのように母親に追随し、また母親は赤ん坊の世話をどのようにしているかを調べ、生後2～3カ月以後の赤ん坊の死亡と母子間の相互交渉との関連を分析している。

総 説

- 1) 森 梅代(1986): ニホンザルメスの社会的発達と社会関係。動物—その適応戦略と社会, 11: 1-93. 東海大学出版会。

報告・その他

- 1) Kawamura, S. and Megantara, E.N.(1986): Observation of primates in logged forest on Sipora Island, Mentawai. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5: 1-12.
- 2) Suzuki, A.(1986): The ecological survey on the effects of the forest fires and droughts in 1982-83, and the distributions and populations of primates along the middle-upper streams of Sungai Sengata in Kutai National Park, East Kalimantan, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5: 13-22.
- 3) Suzuki, A.(1986): The socio-ecological study on the orangutans in the Mento-ko-Bt. Sinara study area, in Kutai

1) 教務職員

National Park, E. Kalimantan, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5: 23-28.

学会発表

- 1) 川村俊蔵 (1986): メンタウェイヤセザル *Presbytis potenziani* の社会と音声の位置づけ。第2回日本霊長類学会「アジアの真猿類の研究 川村・鈴木」。
- 2) 鈴木 晃 (1986): 東カリマンタン・クタイ国立公園における霊長類の分布とオランウータンの社会・生態学的研究。第2回日本霊長類学会「アジアの真猿類の研究 川村・鈴木」。

変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄・峰澤 満

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学研究

野澤 謙・庄武孝義・早坂謙二¹⁾

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル44群、総個体数約2,600頭の血液試料について、35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。また、新たにミトコンドリアDNAの多型を標識として加えた。これらデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

2) *Macaca* 属サル系の系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義・早坂謙二

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から材料を採集し、前項1)同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分かれ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。61年度には、ミトコンドリアDNAの多型を標識にしてマカク属3種の系統

関係を推定し公表した。

3) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行いつつある。61年度にはネパールにおいて海外調査を行った。

4) *Cercopithecus* 属サルの遺伝的分化に関する研究

庄武孝義・野澤 謙・早坂謙二

60年度の海外調査によりカメルーンにてグリベットモンキーとパタスモンキー、エチオピアにてグリベットモンキーの資料を収集したのでこれまでに得られている資料と合わせて *Cercopithecus* 属サルの地域分化、亜種分化、種分化を遺伝距離でもって定量化し公表した。

5) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰澤 満

61年度、ボリビアおよびブラジルにおいて血液試料を入手した。これらの試料にもとづいて核型およびその変異の検索を行っている。電気泳動法による血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異の検索を合わせて行い、新世界ザルの系統相互関係の解明を試みている。

6) キヌザル科のキメラの遺伝学的研究

峰澤 満

キヌザルにみられる血液および生殖細胞のキメラの遺伝学的解析を行いつつある。

7) 中国黄山でのチベットモンキー調査

和田一雄

1986年8月から、安徽省においてチベットモンキー (*Macaca thibetana*) の分布調査、黄山の群れの泊まり場、運動時の社会調査を行っており、現在も続行中である。

論文

- 1) Hayasaka, K., Kawamoto, Y., Shotake, T. and Nozawa, K. (1986): Probability of paternity exclusion and the number of loci needed to determine the fathers in troop of macaques. *Primates*, 27: 103-114.
- 2) Hayasaka, K., Horai, S., Shotake, T., Nozawa, K. and Matsunaga, E. (1986): Mi-